

生活を見つめ、よりよくしようとする実践的な態度の育成

——第6学年「クリーン大作戦～われらクリーン調査隊～」の実践を通して——

西条支部

1 研究の視点

- (1) 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実
- (2) 対話的な学びの充実

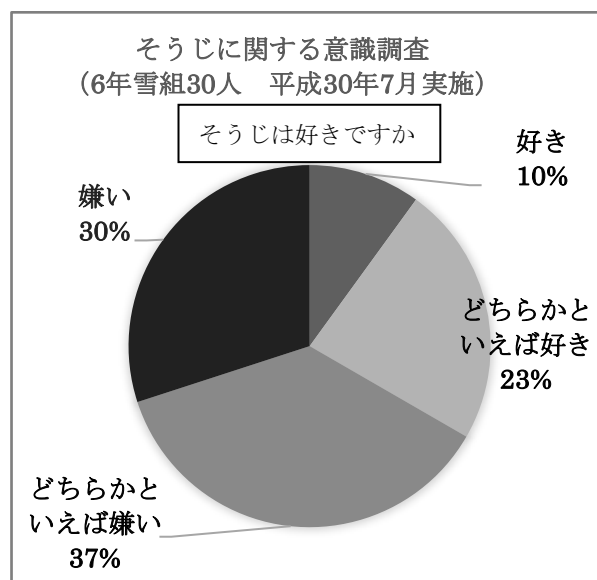
2 実践事例

- (1) 題材名 「クリーン大作戦～われらクリーン調査隊～」
- (2) 目標

- 身の回りの汚れに関心をもち、清掃の仕方を見直し、よりきれいに清掃しようとする。
- 汚れの種類や場所に応じた清掃の仕方が分かる。
- 汚れの種類や場所に応じた清掃の仕方について考え、自分なりに工夫する。
- 汚れの種類や場所に応じた清掃をすることができる。

- (3) 題材設定の理由

- 本学級の児童〔男子15名、女子15名 計30名（特別支援学級児童4名を含む）〕は、家庭科の学習に関心をもち、たいへん意欲的に取り組む。児童は、5年生で「かたづけよう身の回りの物」を学習し、学校や家庭で、自分の机の周りや持ち物を整理・整頓したり、清掃をしたりと、身の回りの環境を整える経験をしてきている。それらを通して、身の回りを整理・整頓することで、気持ちよく過ごすことができたり、必要なものが取り出しやすかったりすることを実感している。しかし、清掃に関する事前アンケート（資料1）では、「掃除が好き・どちらかといえば好き」と答えた児童が33%だったのに対し、「嫌い・どちらかといえば嫌い」と答えた児童は67%で、理由の多くは「面倒だから」であった。また、整理・整頓や掃除に取り組んだのは、「家族に促されたから」「掃除時間だったから」という理由がほとんどで、生活に必要であることは分かっているが、自ら進んで取り組むまでには至っていない。



〈資料1 平成30年7月実施アンケート結果〉

- 本題材は、自分の生活の場所に目を向け、身の回りの汚れに気付いたり、清掃の必要性を理解したりし、工夫して清掃を実践することをねらいとしている。ふだん何気なく見ている汚れも、「床の材質の上ののっている汚れ（ほこり、ちり等）」「材質にくっついている汚れ（絵の具や墨等）」「材質に染みついているしつこい汚れ（時間が経ったものや洗剤を使わないときれいにならないもの）」などに分類でき、汚れの種類に応じた清掃の仕方を工夫しないときれいにならない。身の回りの汚れを実際に調べることを通して、「掃除は、面倒くさい、嫌い」と感じている児童に興味をもたせ、汚れについての知識や清掃の基礎・基本をしっかりと身に付けさせたい。また、水拭きで落ちない汚れとなると、安易に便利な市販のそうじグッズや洗剤に頼りがちであるが、環境面や健康面からも考えさせ、身近なものや不用品を使った「安心・安全な」清掃の方法を工夫させたい。学校での実践を通して得た達成感が、児童の清掃に対する意識を変え、家庭での実践につなげていくことができるのではないかと考える。
- 指導に当たっては、まず、清掃に対して日頃どのような思いで取り組んでいるかなどを振り返らせる。そして、身の回りのどこに、どんな汚れがあるのかを調べ、汚れを分類させる。その際、

「ダスキン掃除教育カリキュラム」で提供されている映像教材や提案されている実験などを通して、汚れの種類に応じた清掃の仕方ではないときれいにならないことを体験的に理解させる。また、清掃をしなかったらどうなるかを想像することで、みんなが「気持ちよく、元気で過ごす」「物を長持ちさせる」ために、清掃が大切であることを気付かせたい。次に、ガスコンロ、流し、窓の汚れの様子や清掃の仕方を班で分担して調べ、清掃計画を立てて清掃を行う。個人では取り掛かりにくかったり、方法が限られたりするが、グループで協力しながら取り組むことで、「汚れに応じて掃除をするときれいになった。」という達成感を味わうことができると考える。この体験を通して得た「自分でできた。」という自信や喜びが、家庭での実践への意欲につながるものとする。

そこで、本時はまず、汚れの種類や場所に応じた清掃の仕方を調べて立てた清掃計画を発表し合う。同じ場所を2つの班に担当させ、「どちらが、よりきれいに、環境や健康のことを考えた安心・安全な掃除ができそうか」を他の児童に考えさせることで、それぞれの班の清掃計画の工夫や改善点に気付かせたい。また、ダスキン講師の「掃除のプロ」に判定してもらったり、アドバイスをもらったりすることで、清掃への意欲を高めるとともに、清掃用具や方法について改めて見直させ、次時の実践へとつなげていきたい。

(4) 指導と評価の計画（全8時間）

時間	学習内容	主な学習活動	評価規準（評価方法）
1	○ どうして掃除をするのだろう。	○ 身の回りの汚れを調べる。 ○ 清掃の大切さについて考える。	○ 汚れの種類や場所に関心をもって、汚れ調べをしている。 【関】（観察、ワークシート） ○ 清掃の大切さ、必要性が分かる。【知】（ワークシート）
2	○ 掃除用具を正しく使おう。	○ 映像教材や実験を通して、正しい清掃用具の使い方を知る。	○ 効果的な清掃用具の使い方が分かる。【知】（発言、ワークシート）
3	○ 汚れや場所に応じた掃除の仕方を考えよう。	○ 汚れやすい場所（ガスコンロ、流し、窓）の汚れの種類等について調べる。 ○ 班で清掃の仕方について考える。	○ 担当した場所の汚れの種類に関心をもち、汚れ調べをしたり、清掃の仕方を考えたりしている。【関】（観察、ワークシート） ○ 汚れや場所に応じた清掃の仕方が分かる。【知】（発言、ワークシート）
4 本時	○ クリーン大作戦の計画を立てよう。	○ 班ごとに計画を発表する。（作戦発表会） ○ 「掃除のプロ」からアドバイスをもらい、計画について見直す。	○ 清掃の仕方を、自分なりに考えたり工夫したりして、計画を立てている。【創】（発言、ワークシート）
5 6	○ 工夫してきれいにしよう。（クリーン大作戦～学校編～）	○ 分担した場所を、自分たちで考えた方法で清掃する。 ○ 作戦報告会をする。	○ 清掃用具等を適切に使い、汚れや場所に応じた清掃をすることができる。【技】（観察、ワークシート）
7	○ 家庭でのクリーン大作戦の計画を立てよう。	○ 家庭で清掃したい場所を選び、清掃の計画を立てる。（作戦発表会）	○ 清掃の実践計画を立てることができる。【技】（ワークシート）
8	○ 作戦報告会（クリーン大作戦～家庭編～）をしよう。	○ 家庭での実践報告を基に、質問や感想を出し、話し合う。	○ 家庭での実践を基に清掃の方法について考え、生活に生かそうとしている。【関】（実践発

		○ 友達の実践や自分の反省を基に清掃の方法について学習したことをまとめる。	表、ワークシート)
--	--	---------------------------------------	-----------

(5) 本時の指導 (4 / 8)

ア ねらい

汚れの種類や場所に応じた清掃の仕方を、自分なりに考えたり工夫したりして、清掃計画を立てることができる。

イ 準備物

発表資料、ワークシート、重曹、クエン酸、古歯ブラシ、割り箸など

ウ 展開

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	○指導上の留意点◎評価
1 学習課題を確認する。		
プロもびっくり！○○小クリーン大作戦!!～より安心・安全な方法できれいにしよう～		
2 班ごとの清掃計画を発表する。	<p>○ 班ごとに計画を発表しよう。 〈ガスコンログループ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガスコンロの周りには、油汚れや焦げ付きがあった。洗剤やたわしを使ってきれいにしたい。環境や健康のことを考えて、重曹を使いたい。 <p>〈流しグループ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流しには洗剤の跡や泥汚れがあり、排水口には汚れがこびり付いていた。漂白剤を使ってきれいにしたい。ゴム手袋をすれば安心だと思う。 <p>〈窓グループ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓ガラスには泥汚れや手の跡がついていた。新聞紙で磨くとよいと聞いたので、新聞紙を使いたい。 	<p>○ 「掃除のプロ」を紹介し、発表後、アドバイスをもらうことを知らせ、本時への意欲を高める。</p> <p>○ どこに、どんな汚れがあったのかが分かるように、電子黒板で写真を見せながら発表させる。</p> <p>○ 班の「安心・安全」ポイントが分かるように発表させる。</p> <p>○ 同じ場所を担当した2つの班の発表を聞いて、「どちらが、よりきれいに、環境や健康のことを考えた安心・安全な掃除ができそうか」を他の児童に考えさせる。</p>
3 意見交換をする。	<p>○ 他の班の清掃の仕方のよいところやもっと工夫できるところを見付けて発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漂白剤は、健康のことを考えたら使わないほうがよいのではないかな。調べたら、重曹でもきれいになると書いてあったよ。 	<p>○ 見つけた「安心・安全」ポイントを発表させる。</p> <p>○ 改善点については、「なぜ、変えたほうがよいのか」「どんな方法があるのか」をきちんと発表させるようにする。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・不用品で、細かいところまで掃除ができるような道具が作れるよ。 	
4 講師の話を聞く。	○ 掃除のプロにアドバイスをもらおう。	○ ワークシートを用意し、メモを取りながら聞くよう声を掛ける。
5 清掃計画の見直しをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「より安心・安全な」クリーン大作戦になるように計画を見直そう。 ・コンロの焦げは、たわしより歯ブラシを使うとよさそうだよ。古い歯ブラシを持って来よう。 ・重曹って便利だね。いろんなところに使えて安心だね。 ・クエン酸も使ってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の班の清掃の仕方の良い点や、掃除のプロのアドバイスを取り入れるように助言する。 ◎ 汚れの種類や場所に合った清掃の仕方を、自分なりに考えたり工夫したりして清掃計画を立てることができたか。【創】(発言、ワークシート)
6 感想を發表し、次時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の感想を發表しよう。 ・身近なものや不用品を工夫すると便利な掃除道具になることが分かった。 ・重曹やクエン酸で、家中きれいにできることが分かったので、家でも掃除を試してみたい。 ・早くクリーン大作戦をして、きれいにしたい。 	○ 本時のまとめをするとともに、次時の活動への意欲付けを図る。

(6) 活動の実際

ア 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実

(ア) 「掃除のプロ」によるアドバイス

「クリーン大作戦」の計画では、汚れの種類・場所に合った清掃の仕方や、健康や環境に配慮した清掃方法について、インターネットや本等で調べたり家の人に尋ねたりしたことを持ち寄り、班で話し合っ、清掃計画を立てた。各班の清掃計画を發表し合う際に、ダスキン講師の「掃除のプロ」に聞いてもらい、工夫している点を褒めていただいたり、清掃計画へのアドバイスをいただいたりした(写真1・2)。児童は、自分たちの班の「安心・安全」ポイントを認めてもらったり、「上から下へ」「奥から手前へ」等、分かっているようで意識していなかった正しい清掃の仕方を再度教えていただいたりして、清掃の方法や手順について見直すことができた。また、クリーン大作戦への意欲が高まり、不用品を使った手作りの清掃用具を進んで準備する児童の姿が見られた。



〈写真1 清掃道具についてのアドバイス〉



〈写真2 清掃の手順についてのアドバイス〉

(イ) 体験的な活動の場の設定

「できる」「分かる」を実生活につなげるため、模擬体験の場を設定し、個人やグループで取り組ませるようにした。単元の初めに身の回りの汚れ調べをした後、毎日、自分たちが使用している机の清掃に取り組ませた。ふだんどおりに雑巾で拭いた後、メラミンスポンジや歯ブラシ・石鹼水で磨き、白い布で拭かせた。すると、汚れているように見えなかった机から予想以上に黒い汚れが出て、知らないうちに積み重なっていく汚れがあることを実感することができた。また、「汚れの種類や場所に応じた清掃の仕方」の学習では、ペットボトルを利用して、水性サインペンと油性サインペンの汚れ落としをした。水で絞った雑巾で落ちなかった油性サインペンの汚れを、石鹼や練り歯磨き、雑巾や歯ブラシを使って落とす。その際の汚れの落ち方やペットボトル面の傷の有無から、汚れを効果的に落とすには、汚れの種類や場所に合った清掃の仕方を考えなければいけないことを理解することができた。

「クリーン大作戦～学校編～」では、流し、窓、ガスコンロの清掃をした。同じ場所を2つの班に担当させ、自分たちの清掃計画の「安心・安全」ポイントを明確にして発表し合わせることで、「どちらが、よりきれいに、環境や健康のことを考えた安心・安全な掃除ができそうか」を考え、それぞれの班の清掃計画の工夫や改善点に気付かせることができた。また、互いの取組がよい刺激となり、「他の班より工夫してきれいにしよう。」という気持ちが高まり、班で協力しながら、主体的に取り組むことができた。清掃後、きれいになった清掃場所を見合いながら、感想を述べ合うことで、「汚れに応じて工夫して掃除をするときれいになった。」という達成感を味わうことができた。ここで得た「自分でできた。」という自信や喜びが、家庭での実践への意欲につながるものと考えた。

イ 対話的な学びの充実

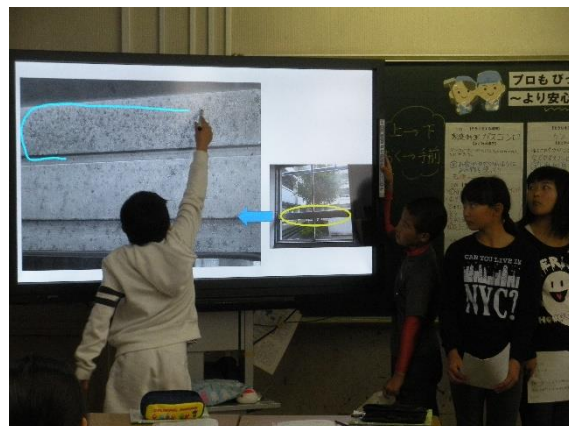
実践的・体験的な活動の前後には、発表会や感想の交流、活動の振り返り、話し合い等の言語活動を多く取り入れるようにした(写真3・4)。活動後の感想や振り返りを、班や学級全体で共有することで、児童一人一人の清掃への興味・関心が高まっていた。

「クリーン大作戦～学校編～」の作戦報告会では、清掃前後の写真を電子黒板に映して発表することで、きれいになった実感がもて、達成感を味わうことができた。また、自分が掃除していない場所の様子も分かり、「次は別の場所をきれいにしてみたい。家でもやってみたい。」という家庭での実践への意欲につなげていくことができた。

「クリーン大作戦～家庭編～」でも、作戦発表会や作戦報告会を開いた。作戦発表会では、自分が考えていた清掃方法を発表したり、友達の発表を聞いたりすることで、よりよい方法を見付け、自分の計画を見直し、実践への意欲を高めることができた。作戦報告会では、きれいにした場所の写真を見せたり、家族の感想を紹介したりする中で、みんなに自分の取組を認めてもらい、満足感を得ることができたようだ。



〈写真3 事前発表会の様子〉



〈写真4 作戦報告会の様子〉

3 成果と課題

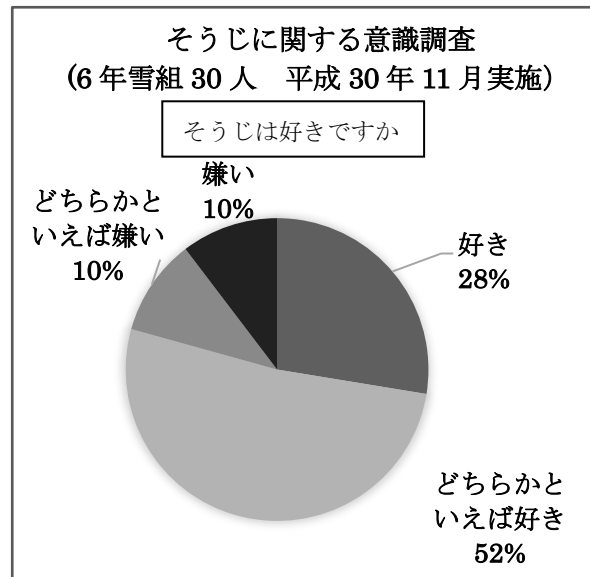
正しい清掃の仕方を学び、班のみんなと共通課題に協働して取り組むことで、「分かった」「できた」体験が自信や喜びにつながった。家庭での「クリーン大作戦」を計画する前に、学校で学んだ清掃方法を早速家庭で試す児童が出てくるなど（資料2）、清掃や家庭での実践への意欲を高めることができた。

- 家の窓がきたなかったもので、学校でやった方法でそうじをしてみると、きれいになりました。また、重そうを使って床をそうじすると、白くなって気持ちがよかったです。
- 環境のことを考えて、重そうを使ってそうじをしました。学校で、ガスコンロをそうじするとききれいになったので、さっそく家のガスコンロもそうじしてみました。ピカピカになってうれしかったです。きれいにするのが楽しくなってきたので、トイレも重そうを使ってそうじしてみました。とてもきれいになって、家の人も喜んでくれました。

〈資料2 児童の感想〉

また、事後の清掃に関するアンケート（資料3）では、「掃除が好き・どちらかといえば好き」と答えた児童が7割を超え、「きれいにすると、気持ちいい。」「きれいにするのが楽しくなった。」という意識の変化が見られた（資料4）。ふだんの清掃時には、学習した床の拭き方やほうきの使い方を意識し、進んで清掃に取り組む児童の姿が多く見られるようになった。

この取組が一時的なものに終わってしまわないように、継続的な実践、家庭での日常化を図る工夫が必要であり、家庭への啓発が今後の課題となる。学校で学習した内容を家庭でも理解していただき、少しでも実践につなげる方法を探っていかなければならないと感じた。



〈資料3 平成30年11月実施アンケート結果〉

- そうじは、今までできらいたったけど、「きれいになったね。」と言ってもらえるとうれしいので、少し好きになりました。私にとって、そうじはめんどうなものだったけど、今は、「そうじ=きれいになる」になりました。
- 今までは、きたないところは、あまりそうじをしたくなかったけれど、きたないところをそうじした後、とてもきれいになり、気持ちがすっきりしたので、そうじが好きになりました。これから、そうじをしてみたい場所は、学校のトイレです。少しでもさぼれば、ばれてしまうところなので、自分がどれだけきれいにできるかやってみたいです。
- 自分がこれまで気づかなかった汚れやすき間のほこりなどを見つけて、きれいにすることができました。身近な歯みがき粉と古い歯ブラシで、汚れを落とすことができびっくりしました。今までは、言われるから、いやいやそうじをしていたけど、今はきれいにしようという気持ちになっています。家の手洗い場や引き戸のすき間の汚れを教えてもらった方法で、がんばってそうじしたいと思います。

〈資料4 児童の感想〉